



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。  
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

# JOCオリンピック教室

## 実施報告書

福島県 喜多方市立第三中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、  
オリンピック自身の様々な経験を通して  
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、  
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、  
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

### 1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、  
チームワーク、フェアプレー、  
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



### 2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、  
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、  
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



**1コマ目**

**運動の時間 / 50分**

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等を受け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

**2コマ目**

**座学の時間 / 50分**

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、  
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、  
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、  
今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した  
自己紹介



オリンピック自身の経験に基  
づく「オリンピックの価値」等を  
伝える



個人またはグループワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック**：岡里 明美 先生 (バスケットボール)【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■ **期 日**：2023年3月1日(水)

■ **ク ラ ス**：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・バスケットボールの日本代表選手として、アトランタ1996大会に出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」「素晴らしい」、フレンドシップ：「友達」「協力」、リスペクト：「尊敬」と説明。運動の時間は、元気に積極的に取り組む、班毎で協力し合う、先生が話をする時はボールを床につかないことの3つの約束を守ってほしい。準備運動は、1人1球バスケットボールを持ち、ハンドリングやドリブル、ボールを持ったままストレッチ等を行う。その後、2～3人組になり、中央に置いたボールを先生の合図で獲り合うゲームを実施。

○主運動等



・主運動の1つ目は、パス回し競争を実施(全3回)。班毎に円を作り、両隣りの人以外にパスをするルールで、落とさずに連続してパスができた回数を競う。1回目はボールを1個、2、3回目はボールを2個使用して実施。主運動の2つ目は、シュート競争を実施(全3回)。各班5個ずつボールを準備し、全員が順番にシュートを打つ。シュートが成功したら、そのボールをマーカーの上に並べ、早くボールが無くなった班の勝ち。



・運動の時間を振り返り、授業の最初に伝えた、3つの約束をしっかり守り、意識して取り組んでいる姿は素晴らしい。座学の時間は、自身がオリンピックに出場するまでの経験や、様々な人との出会い等で感じたことや学んだことを話す。オリンピックバリューを、皆に身近に感じて貰えるように、運動の時間や日常生活とオリンピックバリューが、どのように結び付いているかを、皆と一緒に考えていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：岡里 明美 先生 (バスケットボール)【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■ **期 日**：2023年3月1日(水)

■ **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリンピックの価値を伝える



・映像を見ながら自己紹介をした後、近代オリンピックの創始者であるピエール・ド・クーベルタンについて、健康的な肉体と健全な精神を持つことで、社会の発展を促す。スポーツを通して、言葉や文化を乗り越えて交流することで、世界平和に繋がると考え、オリンピックを開催したと説明。オリンピックバリューの「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」には、どのような意味が込められているのか、皆と一緒に考えていきたい。

○個人ワーク ～ グループワーク 等



発問：①運動の時間に感じたことや行動をオリンピックバリューに当てはめてみよう。②日常生活での行動をオリンピックバリューに当てはめてみよう。  
 発表：エクセレンス：①「諦めないでシュートを打つ」「強い気持ちで臨む」、②「全てに努力する」「自分と向き合う」「部活動を休まない」等  
 フレンドシップ：①「声を掛けながらパスをする」「お互いがアドバイスをし合う」、②「手伝う気持ちを持つ」「誰とでも仲良く付き合う」等  
 リスペクト：①「他のチームの応援をする」「ルールを守る」「仲間に優しく接する」、②「校則を守る」「挨拶をしっかり行う」「家族に感謝」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューは、オリンピック選手だけのものではなく、皆の日常生活にも当てはまり、皆のものでもある。これからもオリンピックバリューを忘れずいてほしい。特にリスペクトの気持ちは、他の人に対してだけでなく、自分自身へのリスペクトの気持ちも忘れないでほしい。これからの長い人生において、様々なことに挑戦するチャンスがあり、皆は可能性の塊だ。どんなことにも諦めず挑戦する気持ちを持ち続けてほしいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：岡里 明美 先生 (バスケットボール)【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■ **期 日**：2023年3月1日(水)

■ **ク ラ ス**：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・アトランタ1996大会に、バスケットボールの日本代表選手として出場したと自己紹介。現役時代は「アケ」と呼ばれていたため、皆も「アケ先生」と呼んでほしい。運動の時間は、バスケットボールを使い、誰でも楽しめる運動を行う。オリンピックバリューの「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」について説明。失敗しても元気に積極的に取り組む、仲間と協力し合う、先生が話している時は床にボールをつかないことの3つの約束を守ってほしい。準備運動は、バスケットボールのハンドリングやストレッチを実施後、2～3人に分かれ、ボール取り競争を実施。

○主運動等



・主運動の1つ目は、パス回し競争を実施(全3回)。班毎に円を作り、両隣りの人以外にパスをするルールで、落とさずに連続してパスができた回数を競う。1回目はボールを1個、2、3回目はボールを2個使用して実施。主運動の2つ目は、シュート競争を実施(全3回)。各班5個ずつボールを準備し、全員が順番にシュートを打つ。シュートが成功したら、そのボールをマーカーの上に並べ、早くボールが無くなった班の勝ち。



・運動の時間を振り返り、授業の最初に話した3つの約束を守りながら、どうすれば良い結果を出せるかを、作戦タイムで1人1人が一生懸命考え、班の仲間で話し合う様子は素晴らしい。座学の時間は、オリンピックバリューについて、運動の時間で感じたことや、日常生活の行動等と、どのように結びついているかを、皆と一緒に考えていきたいと話し、授業終了。



■ **オリンピック**：岡里 明美 先生 (バスケットボール)【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■ **期 日**：2023年3月1日(水)

■ **ク ラ ス**：2年2組／座学の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリンピックの価値を伝える



・映像を見ながら、現在も指導者としてバスケットボールに携わっていると自己紹介。オリンピックシンボルについて、5つの輪が5大陸を表わす。近代オリンピックの創始者である、ピエール・ド・クーベルタンは、オリンピックを開催するにあたり、健康な肉体と健全な精神を持った若者たちが世界各国・地域から集まり、言葉や文化の壁を乗り越えて友好を深めることで、社会の発展を促す。そしてスポーツを通して世界平和に繋がることを願ったと説明。自身がオリンピックに出場するまでの経験と、オリンピックバリューを結び付けて話す。

○個人ワーク ～ グループワーク 等



発問：①運動の時間に感じたことや行動をオリンピックバリューに当てはめてみよう。②日常生活での行動をオリンピックバリューに当てはめてみよう。  
発表：エクセレンス：①「1人1人が全力で頑張る」「最後まで諦めない」、②「授業に全力で取り組む」「給食の食べ残しをなくす」等  
フレンドシップ：①「勝つために改善点を出し合う」「仲間を励ます」、②「部活動で仲間と協力する」「困っている友達を思いやる」等  
リスペクト：①「3つの約束を守る」「シュートを決めてくれたことに感謝」、②「挨拶をきちんとする」「先生に礼儀正しくする」「助け合う」等



・座学の時間を振り返り、皆で協力しながら考え、発表してくれた内容は、全てオリンピックバリューに当てはまる。これからもオリンピックバリューを忘れずに、普段の生活でも意識してほしい。特にリスペクトについて、周りの人にリスペクトの気持ちを持つことは大切だが、何より、自分自身に対するリスペクトを忘れずにほしい。皆は可能性の塊なので、失敗を恐れずに、何事にも挑戦してほしい。夢や目標に向かって行く中で、失敗や挫折をすることも。その時にオリンピックバリューを思い出し、乗り越えてほしいと話し、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■ 記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■ 修了証贈呈

